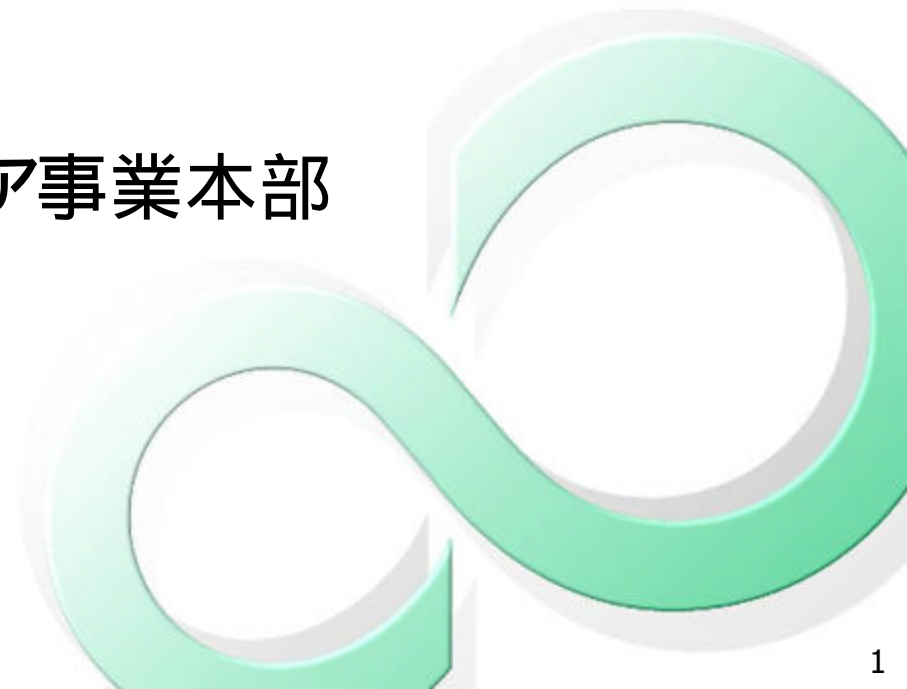


HPFからMPIへのトランスレータ fnpf

富士通 (株) ソフトウェア事業本部
岩下英俊

<iwa@soft.fujitsu.com>

2004年3月12日



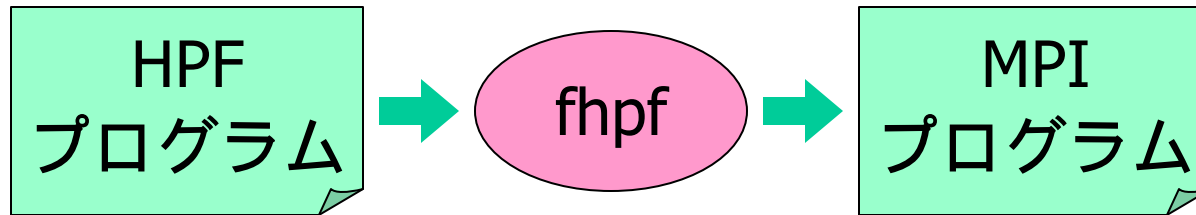
内容

- fhpfの特徴とご使用方法
- 新技術のご紹介
- 機能と性能
- ライセンスに関して
- まとめ



特徴

- トランスレータ方式
- MPI呼出しを直接生成



“MPIプログラムを自動生成するツール”

- 実行時ライブラリなし

FortranとMPIが動く環境なら、どこでも実行可能

fhpfの変換の実例

```
% fhpf block.hpf -f77
fhpf V1.1.3/MPI -- HPF translator for Solaris system
block.hpf -> block.mpi.f
%
```

入力ファイル : block.hpf

```
integer A(100)
!hpf$ processors P(4)
!hpf$ distribute A(block) onto P

!hpf$ independent
do i=n1,n2
  A(i)=i
enddo
end
```

出力ファイル : block.mpi.f

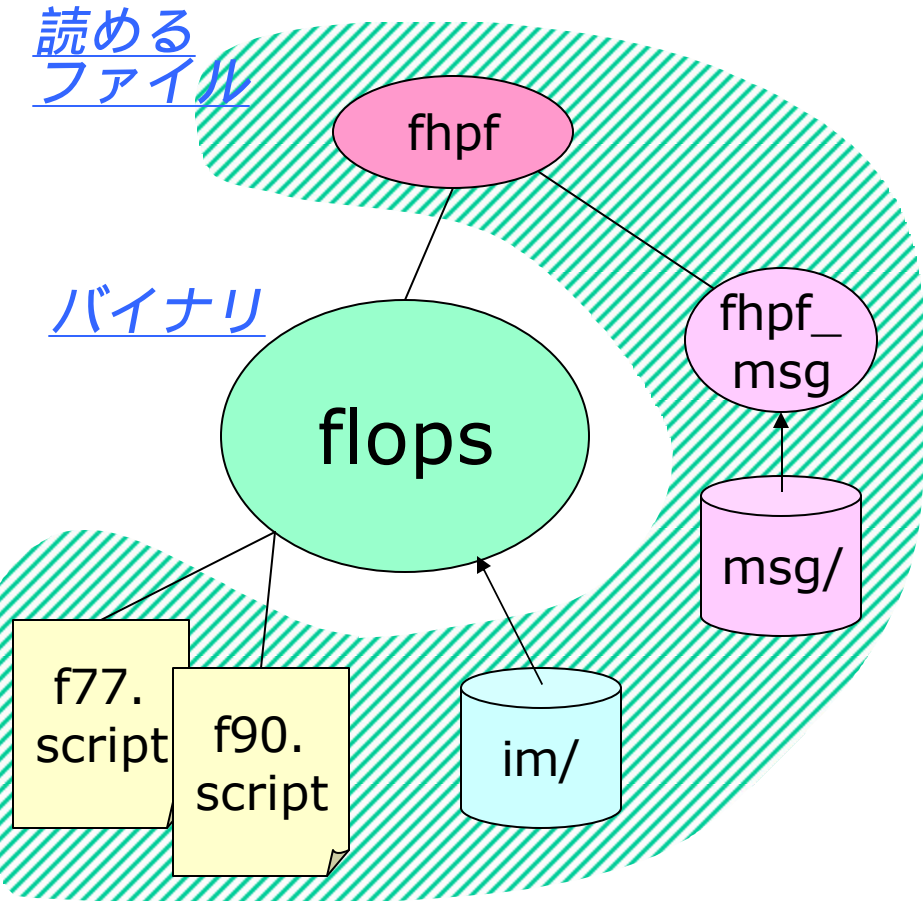
```
PROGRAM ORG__MAIN__
INCLUDE 'mpif.h'
INTEGER*4 ORG_RANK
INTEGER*4 ORG_SIZE
INTEGER*4 ierrX0
COMMON /ORG_COMMON/ORG_RANK,ORG_SIZE
CALL mpi_init(ierrX0)
CALL mpi_comm_rank(MPI_COMM_WORLD,ORG_RANK,ierrX0)
CALL mpi_comm_size(MPI_COMM_WORLD,ORG_SIZE,ierrX0)
CALL ORG__MAIN__()
CALL mpi_finalize(ierrX0)
END
```

```
SUBROUTINE ORG__MAIN__()
INCLUDE 'mpif.h'
INTEGER*4 a(0:24)
INTEGER*4 i
INTEGER*4 n1
INTEGER*4 n2
INTEGER*4 ORG_RANK
INTEGER*4 ORG_SIZE
INTEGER*4 spmdX0
INTEGER*4 spmdX1
INTEGER*4 spmd_startX0
INTEGER*4 spmd_endX0
INTEGER*4 spmd_stepX0
INTEGER*4 ierrX0
COMMON /ORG_COMMON/ORG_RANK,ORG_SIZE
spmdX0 = mod(ORG_RANK,4)
spmdX1 = 25*spmdX0
IF (spmdX0.LE.(n1+(-1))/25) THEN
  spmd_startX0 = n1+(-1)-spmdX1
ELSE
  spmd_startX0 = 0
ENDIF
IF (spmdX0.LT.(n2+(-1))/25) THEN
  spmd_endX0 = 24
ELSE
  spmd_endX0 = n2+(-1)-spmdX1
ENDIF
spmd_stepX0 = 1
DO i=spmd_startX0,spmd_endX0,1
  a(i-0) = (i+spmdX1)-(-1)
ENDDO
END
```

ソフトウェア (fhpf V1.1.3) の構成

読める
ファイル

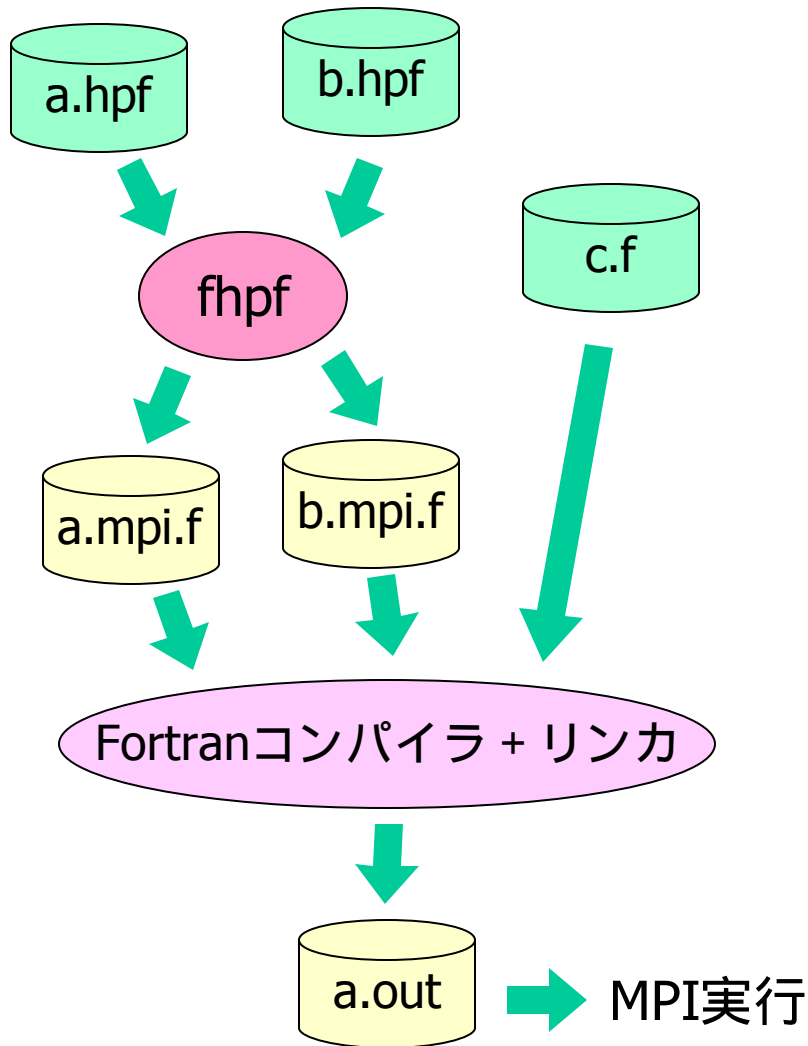
バイナリ



	Linux版	Solaris版
CPU	Intel IA32系	SPARC系
OS	Linux 2.4以降	Solaris 7以降

- fhpf (shell script)
 - 利用者コマンド
- flops (binary)
 - HPFコンパイラ本体
- f77.script, f90.script
 - flopsの制御スクリプト
- im/ 配下
 - 翻訳時生成ライブラリのテンプレート(中間言語表現)
- fhpf_msg (shell script)
 - メッセージ出力用フィルタ
- msg/ 配下
 - メッセージデータファイル

使用方法(1) 翻訳 ~ 実行



HPF翻訳

【例】 `fhpf a.hpf b.hpf`

Fortran翻訳 (MPIと結合)

- 任意のF77, F90コンパイラ
(確認済 : Intel, GNU, Fujitsu)

【例】 `mpif77 a.mpi.f b.mpi.f c.f`

並列計算機で実行

- MPI1.1 APIが動作する環境
(確認済 : MPICH/Linux,
LAM-MPI/Linux,
Fujitsu MPI/PRIMEPOWER)

【例】 `mpirun -np 4 a.out`

使用方法(2) FORTRAN77モード

- HPFはF90ベース Linux環境はg77利用者が多い
- オプション `-f77` を提供
 - 入力は (原則として) F90仕様を含まない HPFに限定
 - Interface blockがない 手順間の整合性は利用者責任

【例】行列積 $C = A \times B$

- $C_1 = A \times B_1, \dots, C_4 = A \times B_4$ に分割し、各々Fortranで計算

$$\begin{bmatrix} C_1 & C_2 & C_3 & C_4 \end{bmatrix} = A \times \begin{bmatrix} B_1 & B_2 & B_3 & B_4 \end{bmatrix}$$

使用方法(2) FORTRAN77モード(続き)

HPF77プログラム my_matmul.f

```
      real A(100,100),B(100,100),C(100,100)
!hpf$ processors P(4)
!hpf$ distribute B(*,block) onto P
!hpf$ distribute C(*,block) onto P
      read(*,*) A,B
      call my_matmul_sub(C,A,B)
      write(*,*) C
      end
```

FORTRAN77プログラム mmm_sub.f

```
      subroutine my_matmul_sub(C,A,B)
      real A(100,100),B(100,25),C(100,25)
      do 10 j=1,25
          do 10 i=1,100
              C(i,j)=0.0
              do 10 k=1,100
10          C(i,j)=C(i,j)+A(i,k)*B(k,j)
      return
      end
```

```
% fhpf -f77 my_matmul.f                ! HPF翻訳
% mpif77 my_matmul.mpi.f mmm_sub.f -o my_matmul  ! F77翻訳と結合
% mpirun -np 4 my_matmul                ! 4並列実行
```


内容

- fhpfの特徴とご使用方法
- 新技術のご紹介
- 機能と性能
- ライセンスに関して
- まとめ



新技術(1) 整列の正規化

プロセッサ形状を正規化

入力プログラム

```
!hpf$ processors P(4)
  real A(1:30),C(1:29),D(1:15)
  real F(1:10,1:30)
!hpf$ template T(30)
!hpf$ distribute A(block) onto P
!hpf$ distribute T(block) onto P
!hpf$ align C(I) with A(I+1)
!hpf$ align D(I) with A(2*I)
!hpf$ align F(*,I) with T(I)

!hpf$ independent
  L1: do I=2,29
!hpf$   on home(A(I)) begin
      A(I)=C(I)*I+F(I,I)
!hpf$   end on
  end do

!hpf$ independent
  L2: do K=1,10
!hpf$   on home(D(K)) begin
      D(K)=A(2*K)
!hpf$   end on
  end do

end
```

テンプレート
を生成

テンプレート
への直接整列に

テンプレート
をHOMEに

$A(I-1) = C(I) * I + F(I, I-1)$

$D(2*K-1) = A(2*K-1)$

正規化結果 (イメージ)

```
!hpf$ processors P(0:3)
  real A(0:29),C(0:29),D(0:29)
  real F(1:10,0:29)
!hpf$ template T1(0:29)
!hpf$ distribute T1(block(8)) onto P
!hpf$ align A(I) with T1(I)
!hpf$ align C(I) with T1(I)
!hpf$ align D(I) with T1(I)
!hpf$ align F(*,I) with T1(I)
!hpf$ independent
  L1: do I=1,28
!hpf$   on home(T1(I)) begin
      A(I)=C(I+1)*(I+1)+F(I+1,I)
!hpf$   end on
  end do

I I+1

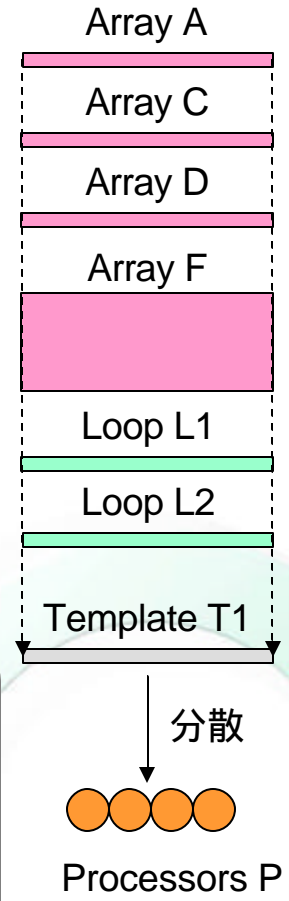
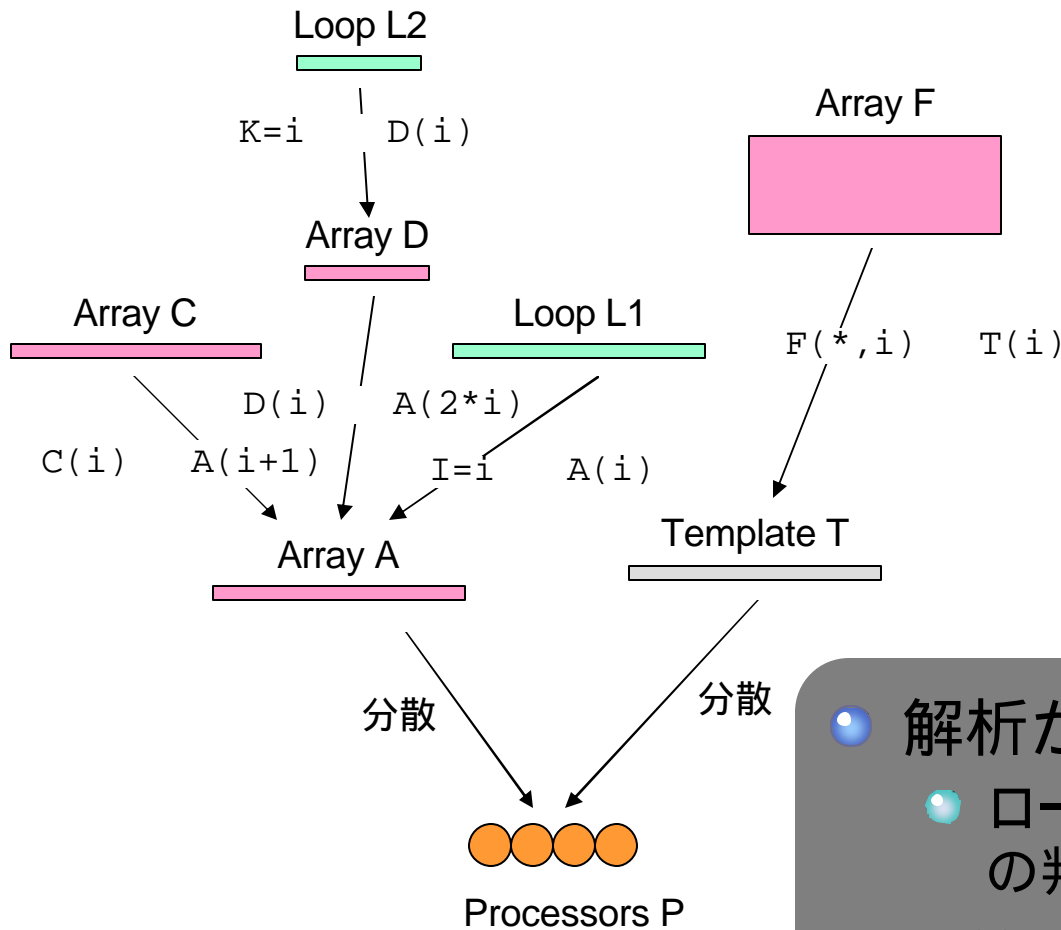
!hpf$ independent
  L2: do K=1,19,2
!hpf$   on home(T1(K)) begin
      D(K)=A(K)
!hpf$   end on
  end do

K (K+1)/2
end
```

形状と
マッピング
を正規化

ループパラメータ
を調整

新技術(1) 整列の正規化 (続き)



- 解析が容易に
 - ローカルアクセスの判定など
- 計算式が簡単に
 - ループ分割後の上下限の計算など

新技術(2) 翻訳時生成ライブラリ

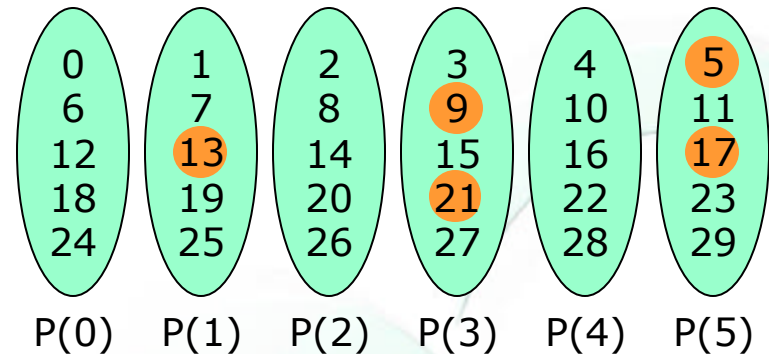
- 作り付けの実行時ライブラリを全廃
 - 通信はすべてMPIの直接呼び出し
 - その他の必要なライブラリは、コンパイル時に作る。

【例】Cyclic分散で、増分付きループパラメタの変換

```
!hpf$ processors P(0:5)
      real X(0:22)
!hpf$ distribute X(cyclic) onto P

!hpf$ independent
      do I=5,22,4
        X(I)=1.0
      enddo
end
```

do I=?,?,?
X(I)=1.0
enddo



GCDの計算などを含み、
コンパイラでは生成が困難

き)

fhpfの 実際の 出力

```
... (省略) ...
  IF ((org_cyclic_f(5,4,6,mod(ORG_RANK,6))).NE.-1) THEN
    spmd_startX0 = (5+(org_cyclic_f(5,4,6,mod(ORG_RANK,6)))*4-(mod(O
&RG_RANK,6)))/6
  ELSE
    spmd_startX0 = 2147483647
  ENDIF
  spmd_endX0 = (28-(mod(ORG_RANK,6)))/6-1
  spmd_stepX0 = 4/(org_gcd_f(6,abs(4)))
  DO i=spmd_startX0,spmd_endX0,spmd_stepX0
    x(i) = 1.0e0
  ENDDO
  END
  FUNCTION org_cyclic_f(i1,i3,pnum,pno)
... (省略) ...
  n_max = pnum/(org_gcd_f(pnum,abs(i3)))
... (省略) ...
  END
  FUNCTION org_gcd_f(m,n)
... (省略) ...
  m2 = m
  n2 = n
1000 CONTINUE
  k = mod(m2,n2)
  IF (k.NE.0) THEN
    m2 = n2
    n2 = k
    GOTO 1000
  ENDIF
  org_gcd_f = n2
  END
```

翻訳時生成
ライブラリ#1

翻訳時生成
ライブラリ#2
(ユークリッド互除法)

内容

- fhpfの特徴とご使用方法
- 新技術のご紹介
- 機能と性能
- ライセンスに関して
- まとめ



HPF機能サポート範囲

HPFの指示文	HPF/VPP5000	fhpf V1.1.3
DISTRIBUTE		
block-cyclic, indirect allocatable配列 ポインタ・構造体 転写的指示	× × × ×	(全種別対応) × × ×
ALIGN		
allocatable配列 ポインタ・構造体 重複分散	× × ×	× × ×
PROCESSORS		
NUMBER_OF_PROCESSORS使用	×	V1.1.3から
TEMPLATE		
SEQUENCE		
INHERIT		×
INDEPENDENT		
HPF組み込み library	(一部制限)	× (ほぼ未対応)

'04/9月
サポート
見通し

'04/9月
サポート
見通し

HPF機能サポート範囲 (続き)

HPFの指示文	HPF/VPP5000	fhpf V1.1.3
EXTRINSIC接頭辞		×
明示的引用仕様なしでの 他言語objectの結合	×	
REDISTRIBUTE	(制限あり)	×
REALIGN	×	×
RANGE	×	×
SHADOW		
フルshadow		×
SUBSET		
ON		(Independent- doのbodyのみ可)
EXT_HOME節		V1.1.3から
RESIDENT		
TASK_REGION		×
ASYNCHRONOUS		
REFLECT		
LOCAL		
INDEX_REUSE	× (機能しない)	× (機能しない)

'04/9月
サポート
見通し

'05/3月
サポート
見通し

性能的な課題

- 入出力文
 - マスタプロセッサだけで処理
 - マスタプロセッサへの / からの通信に改善の余地
- ループ内でのスカラ通信
 - 通信一括化が未実装
ASYNCHRONOUS構文のご利用を



HimenoベンチマークのHPF化

● 3通り作成

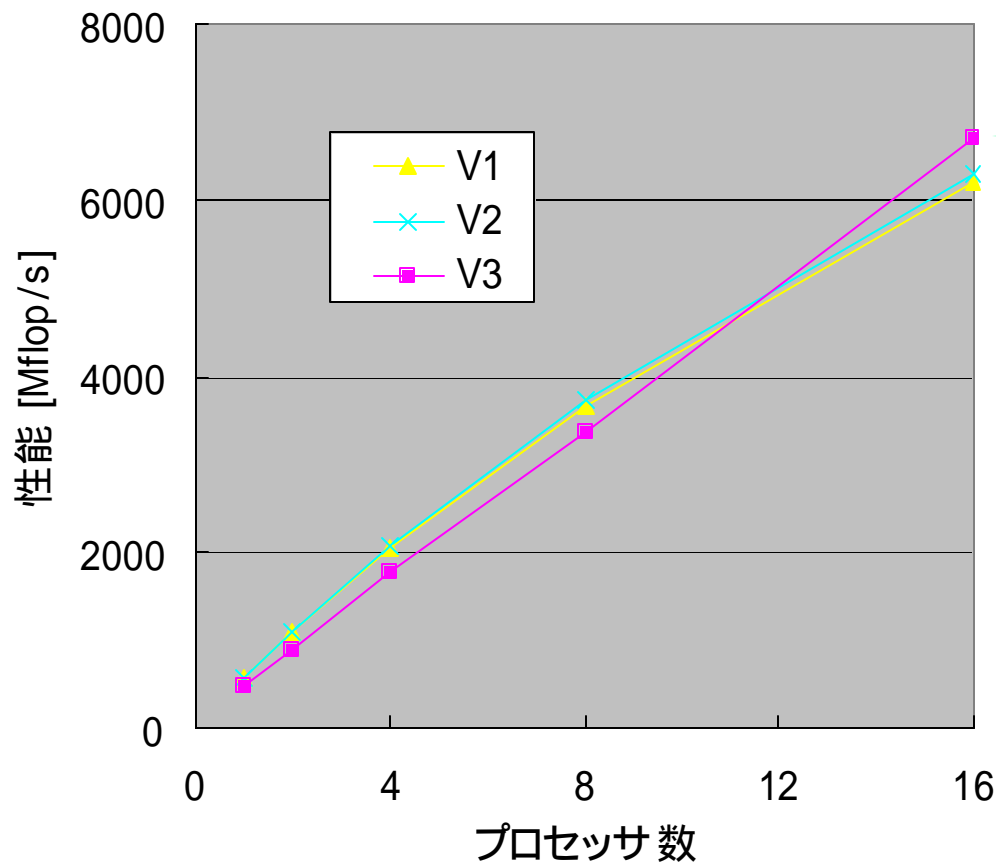
版	作成者	作成方法 (所要時間)	コードの特徴
V1	VPPF熟知 HPF熟知	ソース : 姫野98 VPPF版 1) 並列の観点でソース理解 (30分) 2) HPFに移植 (30分) 3) 姫野xp流に修正 (10分)	•ほとんどのデータは重複 •変数pはshadow/reflect
V2	同上	ソース : 姫野xp Fortran版 先にV1を作成し前提知識あり。 1) HPFで並列化 (2時間)	•全データがblock分割 •変数pはshadow/reflect
V3	MPI歴5年 HPF初めて	ソース : 姫野98 C+MPI版 1) データ配置を重複から分散に変更 (1週間) 2) C+MPI Fortran+MPI (1日) 3) Fortran+MPI HPF (1日)	•概ねV2と同じ。変数gosaの周辺の計算が違う? •C流の添字の並び順序

性能評価(1) Himeno-M / SMP

姫野ベンチHPF版、サイズM

PRIMEPOWER HPC2500 1.5GHz (ノード内)

fhpf V1.1.3, Parallelnavi Fortran2.3, MPI 6.1



逐次の
14.5倍

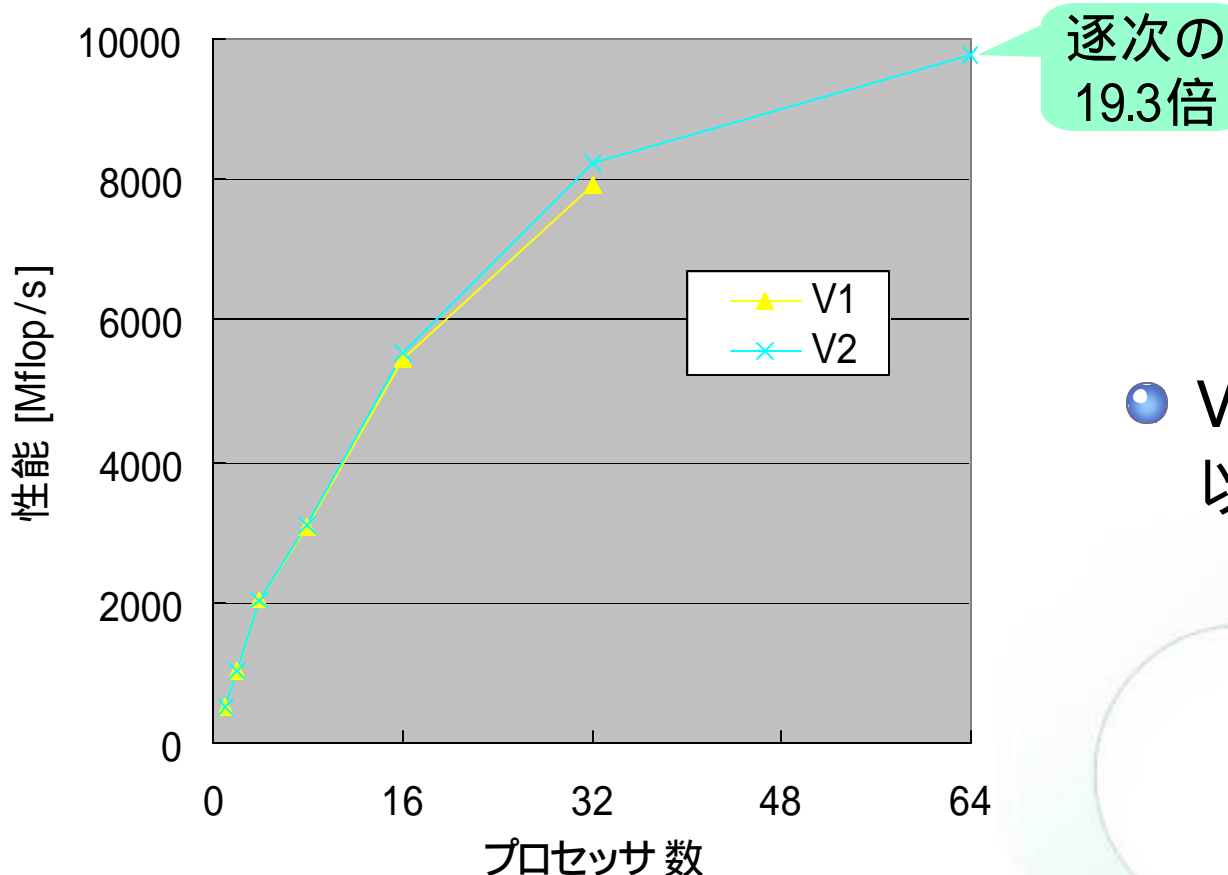
●共有メモリのノード内での
実行結果。

性能評価(2) Himeno-L / SMP

姫野ベンチHPF版、サイズL

PRIMEPOWER HPC2500 1.5GHz (ノート内)

fhpf V1.1.3, Parallelnavi Fortran2.3, MPI 6.1

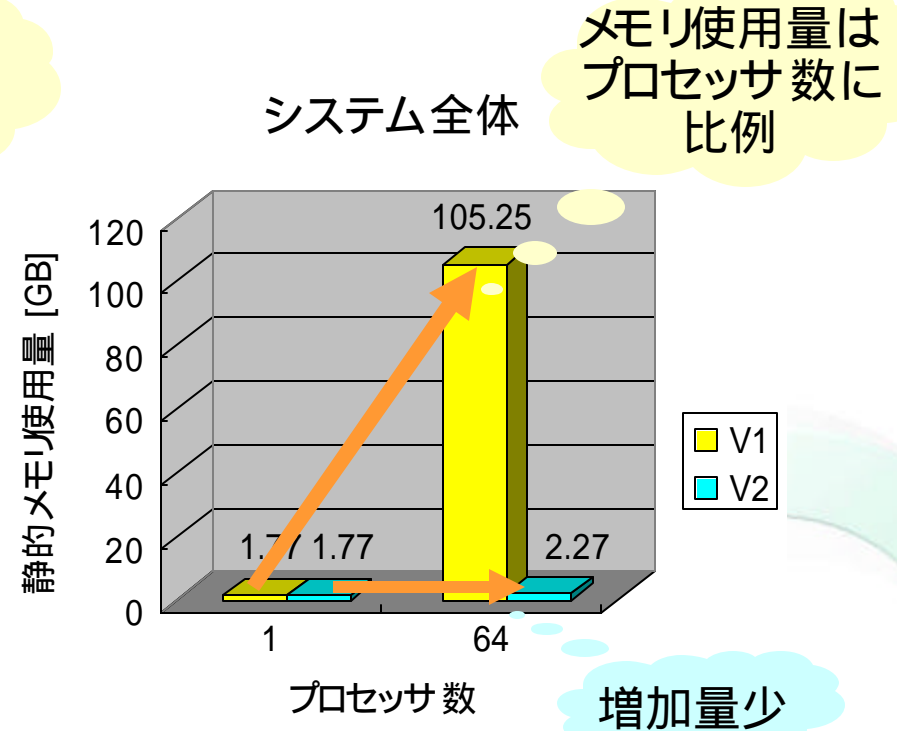
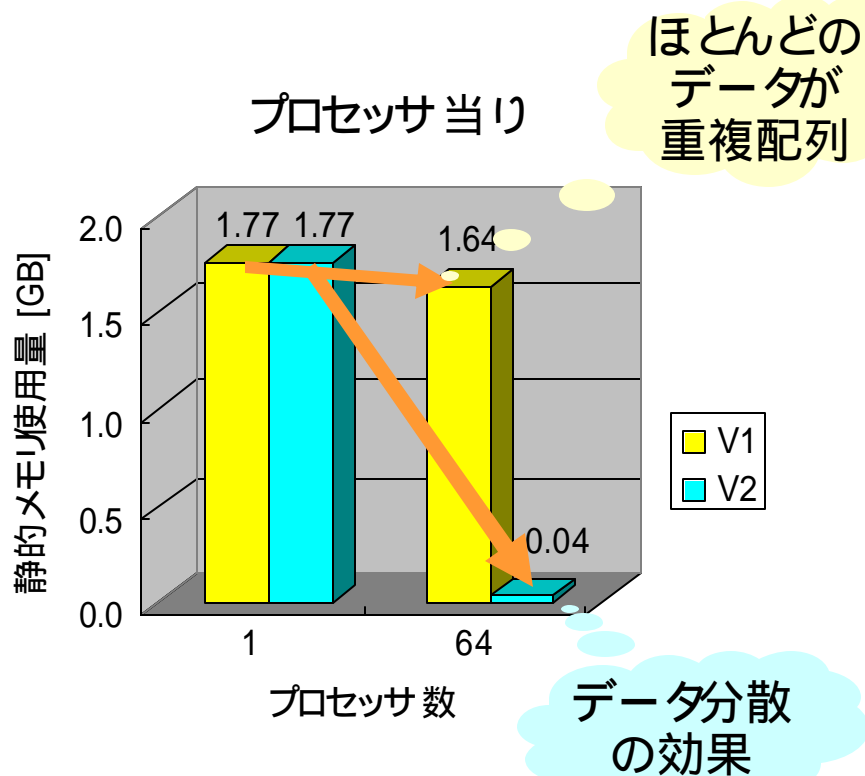


- V1では64プロセッサ以上でメモリ不足

理由は

性能評価(2) Himeno-L / SMP (続き)

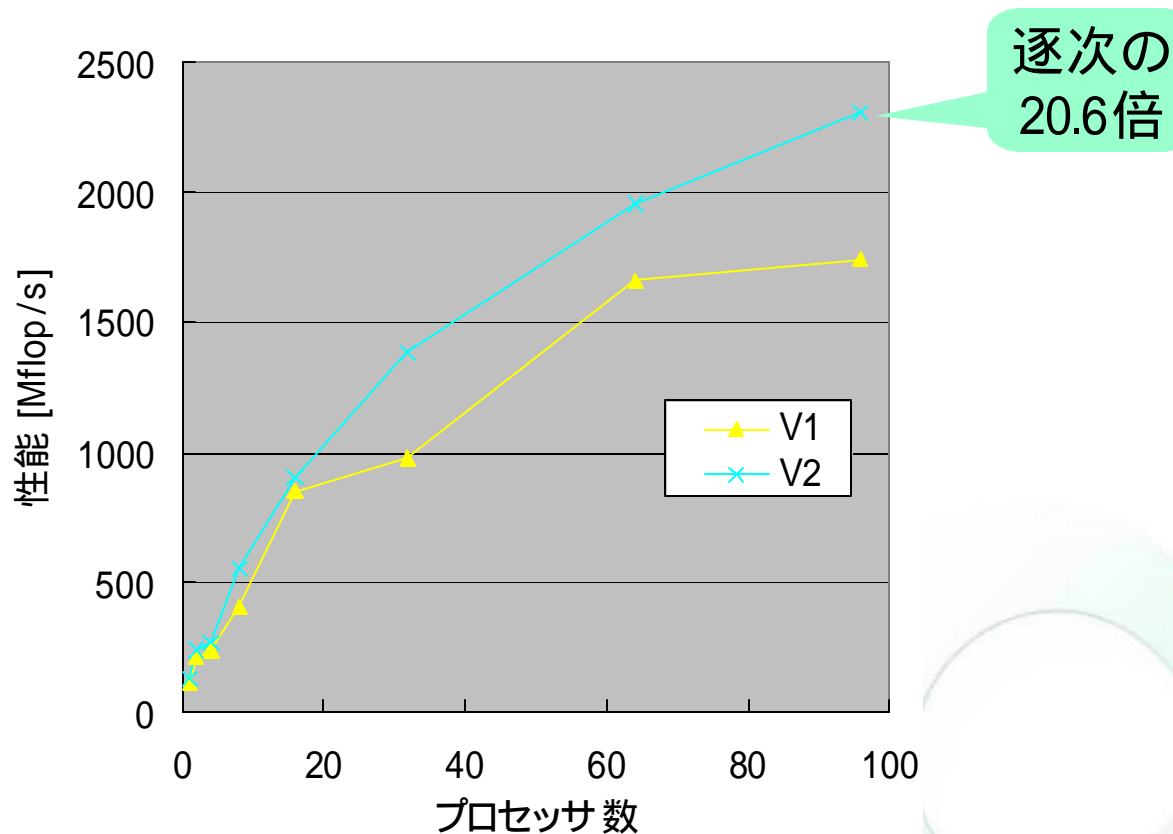
静的なメモリ使用量の比較



SMPでは、重複配列はできるだけ避ける

性能評価(3) ブレードサーバ

姫野ベンチHPF版、サイズM
Linuxサーバ (Mobile Pentium III)
fhpf V1.0, g77, LAM-MPI



逐次の
20.6倍

内容

- fhpfの特徴とご使用方法
- 新技術のご紹介
- 機能と性能
- ライセンスに関して
- まとめ



代表的なライセンス形態

	ソフトは無償 *1	再配布可能	ソース入手可能	ソース変更自由	備考
商用ソフト					バイナリもコピー禁止。
試用版ソフト	yesまたは条件付き	条件付き			fhpfの現在の形態。
シェアウェア	条件付き	yes			利用者は使ってみてから購入または破棄。モラルに依存。
パブリックドメイン	yes	yes			作者が所有権を放棄。日本と欧州では法的に認められない。
フリーウェア (無料バイナリ)	yes	yes			バイナリのみ配布。リバースエンジニアリングなどの行為は禁止。
無料ライブラリ	yes	yes	yes		改変はライセンス違反。クラスライブラリ、ヘッダファイルなど。
オープンソース	BSD方式	yes	yes	yes	ソースは勝手に利用可能。ソース修正は開発元に還元しない。
	GPL *1	yes	yes	yes	GPLソースを利用したソフトウェア全体がまたGPLとなる。
	LGPL *2	yes	yes	yes	LGPLソースを利用したソフトウェアは、その利用部分がLGPLとなると共に、いくつかの義務を負う。

検討中

*1 配布手数料やサービスは別。例えば、RedHatはLinuxの配布が収入源の一つ。

*2 GNU General Public License。GNUのgccやLinux OS (の大部分)など。

*3 劣等GPL (Lesser GPL)。GNUのライブラリの大部分。

フリーウェア化に向けて

広くご意見を頂戴したく思います。

● 想定利用者 / 要件

● 実アプリの研究開発者、利用者

- フリーでも高品質であること。
- 有償サービスとの連携。カスタマイズ、サポートなど。

● コンパイラ、ソフトウェアの研究者

- 改造、実験が容易であること。
- 構成が簡単であること。

● とりあえず持っていたい人、記念に欲しい人

- 入手容易であること。

フリーウェア化に向けて (続き)

● 使用許諾条件の大筋の案

(内容を約束するものではありません。)

- 本ソフトは一式無償配布。ただし
 - Linuxライブラリは、利用者の所有するものをdynamic linkする。
 - 有償モジュールが将来別途提供されるかも。
- 使用、複製、改変は自由。(改変し)再配布するときは、
 - 著作権とライセンスの表示義務
 - 販売は不可
 - 本ソフトを(改造し)他のソフトへ組み入れる場合も、改変に相当
- 使用して得た結果を公表する場合、本ソフト名などの表示

まとめ

- fhpfは、
 - HPFからFortran+MPIを生成する、トランスレータ
- 新機能紹介
 - 正規化 ……解析が簡単に、後続処理が楽に
 - 翻訳時ライブラリ生成 ……MPI直接呼び出しを実現
- 機能・性能強化は継続中
 - 動的再マッピング、タスク並列を順次サポート
 - SMP上、Linuxクラスタ上で評価
- フリーウェア化を検討中
 - ご意見を広く募集します。

参考文献など

- Hidetoshi Iwashita, Kohichiro Hotta, Sachio Kamiya and Matthijs van Waveren. Toward a Lightweight HPF Compiler, HiWEP2002 in The 4th International Symposium on High Performance Computing (ISHPC), May 2002.
 - 中田育男、『コンパイラの構成と最適化』。朝倉書店 (1999)
 - 姫野ベンチ (<http://w3cic.riken.go.jp/HPC/HimenoBMT/index.html>)
 - GNU's Not Unix! - GNUプロジェクトとフリーソフトウェア財団 (FSF) (<http://www.gnu.org/home.ja.html>)
 - マイクロソフト、いわゆる「ハロウィン文書」。
(<http://www.post1.com/home/hiyori13/freeware/halloween.html>)
- [5] Jan Sandred著、でびあんぐる監訳、『オープンソースプロジェクトの管理と運営』。オーム社 (2001)